

氏 名：関根 小乃枝  
学位の種類：博士（看護学）  
学位記番号：甲第188号  
学位授与年月日：2020年3月10日  
学位授与の要件：学位規則第4条第1項該当  
論文審査委員：主査 山田 雅子（聖路加国際大学教授）  
副査 吉田 千文（聖路加国際大学教授）  
副査 奥 裕美（聖路加国際大学准教授）  
副査 遠藤 弘良（聖路加国際大学公衆衛生大学院公衆衛生学研究科長）

論文題目：看護系技官の政策研究推進予算要求能力向上に向けた学習プログラム実装の評価

#### 博士論文審査結果

この研究は、自らが政策形成過程における研究の公募立案に携わった研究者の経験から、国民の健康の向上を図るうえで、厚生労働省内の多様な部署で働く看護系技官が、研究を推進する能力を上げることの必要性を実感したことから始まる。この課題に対し研究者は、政策立案のための科学的根拠となる研究を推進するために必要な看護政策推進のための予算要求能力を強化することを意図した実装研究を実施した。

実装方略は、質改善アプローチを用い、主査・係長級の看護系技官向けに開発した学習プログラムのパイロットスタディを行うことである。学習プログラムは、省内プロジェクトチーム（4名）で開発された。その内容は経験学習モデルをもとに、研究費に関する知識を講義した後に、経験を通じた知識の定着を目指して自部署の課題整理や公募立案に必要な書類作成・発表を行う演習が盛り込まれた。回数は5回で構成され、プログラムは、昼休み時間を活用して毎月1回ずつ、研究者が主催し講師及びファシリテータとなり展開された。

実装アウトカムには、参加者の脱落率、模擬公募要項計画書提出率、学習プログラムの受け入れ度合い等により、学習プログラムの適切性が終了後のアンケートとフォーカスグループインタビューで評価された。

結果は、対象者4人に対して昼休み時間を利用し、5か月間で学習プログラム計8回実施し、全員がプログラムを終了した。受講後には、公募立案等の知識や能力の向上に加え、看護系技官の役割に対する前向きな言動や行動があった。学習プログラムの到達度、採択、実行可能性、受容性、適切性、継続性に関する良好な結果や、今後の継続についても対象者、省内プロジェクトチームメンバーや看護課長から賛同が得られた。一

方で、日程や教材等の実装方略の課題が指摘された。(1180 文字)

こうした結果から当該学習プログラムをさらに受講しやすくするための工夫が考察され、また、異動の多い職場環境から、看護系技官が仕事の一環として継続的に学習できるシステム構をさらなる課題として指摘するに至った。

審査では、本研究がパイロットスタディであるため、次の学習会から使用できる教材として完成度を上げること、研究者が講師にならなくても実行できるプログラムに完成させること、目先の評価でなく日本の国民の健康に関与する研究を立案するための研究であることを明示すること、グラフの値を正しく記載し見やすくすること、繰り返しの記述があるため整理すること、口語体による表現を修正することなどが指摘され、それぞれ適切に修正されたことが確認された。

以上により、本論文は、本学学位規程第 5 条に定める博士（看護学）の学位を授与することに値するものであり、申請者は看護学における研究活動を自立して行うことに必要な高度な研究能力と豊かな学識を有すると認め、論文審査ならびに最終試験に合格と判定する。